自治会運営のヒント集

自治会まるごと支援メニュー

東近江市

はじめに

東近江市内には、389 の自治会があり、地域のまちづくりに欠かすことのできない活動主体として、地域住民の福祉の向上や地域コミュニティの形成といった重要な役割を担っています。

しかしながら、多くの自治会では、まちづくり活動を行う上でさまざまな課題を抱えており、課題解決のために他の自治会と事例を共有する機会も限られていることから、このたび「自治会運営のヒント集～自治会まるごと支援メニュー～」をまとめました。

自治会の活動に「これが正解」というものはなく、それぞれの地域特性や規模、状況に応じた活動が求められているのは言うまでもありません。一方で、他の自治会の工夫を知ることで、自分たちの活動を見直すヒントにもなります。

本冊子の中から、自分たちの地域に応じた活動のヒントを見つけていただき、今後の取組の参考となれば幸いです。

ー目 次ー

今、自治会に必要なことは何か？　P.1

1　自治会活動の意義を説明する際のヒント　P.3

2　自治会への加入者を増やす取組のヒント　P.7

3　自治会活動の担い手不足に対応するヒント　P.11

4　地域の変化に対応する自治会運営のヒント　P.18

5　自治会運営・事業の見直しのヒント　P.22

参考資料　P.26

　アンケート調査票　テンプレート

　自治会長引継帳　テンプレート

今、自治会に必要なことは何か？

01 困りごと・課題

02 必要なこと

・自治会の役員になる方が少ない。
・役員が高齢化してきている。
・特定の人しか活動に参加しない。
・外部のサポートがほしい。
・各種団体の協力がほしい。

プロジェクトチームをつくる

・役員会の運営方法の見直し
・各年代層から男女割合を考慮したチームを考える 等

・行事や活動への参加者が少ない。
・多様化するニーズに対応しきれない。
・自治会活動の充実を図りたいが、住民のニーズがわからない。
・住民の自治会への理解や関心が低い。

住民のニーズを知る

・自治会に求められていることを聞くアンケートを実施
・円卓会議（話合いの場）を持つ

・行事や活動を見直すため、自治会で話合いをしたいが、やり方がわからない。
・役員の負担が大きい。
・自治会でどこまでしたらよいかわからない。

見直し内容を検討する

・見直し内容の具体化
・将来のあり方を検討
・自治会事業・業務の棚卸し仕分け

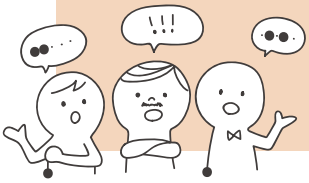
03 具体的な取組

◎声かけ担当と声かけの準備をしておく P.7
◎目的を限定した「ボランティア」として参加 P.11
　ホームページや SNS の発信・編集する人を募集
　活動ごとに手伝ってくれるサポーター制度の設置
◎段階的に役割を担ってもらう P.14
◎役員のお仕事引継ぎマニュアルの作成 P.15

事例 1

公式の Facebook ページを作成して、自治会の情報を発信

◎地域の高齢者の状況を把握する P.18
◎会議やワークショップで話し合う P.22
◎住民アンケートの実施 P.23



事例 2

住民のニーズを把握するため、全住民アンケートの実施

◎チラシの内容を工夫する P.9
　対象者を明確に
　「なぜ、実施しているのか？」を明確に
　「参加したらできること、メリット」を明確に
　イベントの雰囲気、イメージを持てるように
◎参加したいと思える内容にする P.10
◎時代に合わせた自治会運営を考える P.16

事例 3

子育て世代が楽しめるイベント＋防災訓練

1　自治会活動の意義を説明する際のヒント

自治会はどうして地域に必要なのでしょうか？

(1)　地域のつながりの基盤

「遠くの親戚より、近くの他人」という言葉があります。それぞれの仕事や生活でのつながりで十分だという考え方もありますが、困ったときに近所に声かけをする相手や、相談できる人がいることは、安心できる暮らしにつながります。

地震や災害などの問題は突然発生します。何かあってから、誰かに頼ったり、助けを求めたりするのは、とても難しいものです。日頃から地域の行事を通して顔なじみになり、一緒に活動した経験を共有できるなど、地域のつながりの基盤となる役割を果たすのが自治会です。

(2)　安全・安心づくりの基盤

災害対応をはじめ、地域の安全を守るのは、行政や警察・消防だけで十分に対応することは困難です。この点、自治会は、地域の実情を知り、多くの情報を持ち、自分の住む地域のことを一番に考え、迅速に対応することができます。子どもや高齢者の見守りやパトロールにより地域の安全を守り、孤独死をなくすことができます。また、災害時の助け合いやごみ問題など、地域トラブルへの対応がスムーズになります。

(3)　地域に対する意識や愛着を高める基盤

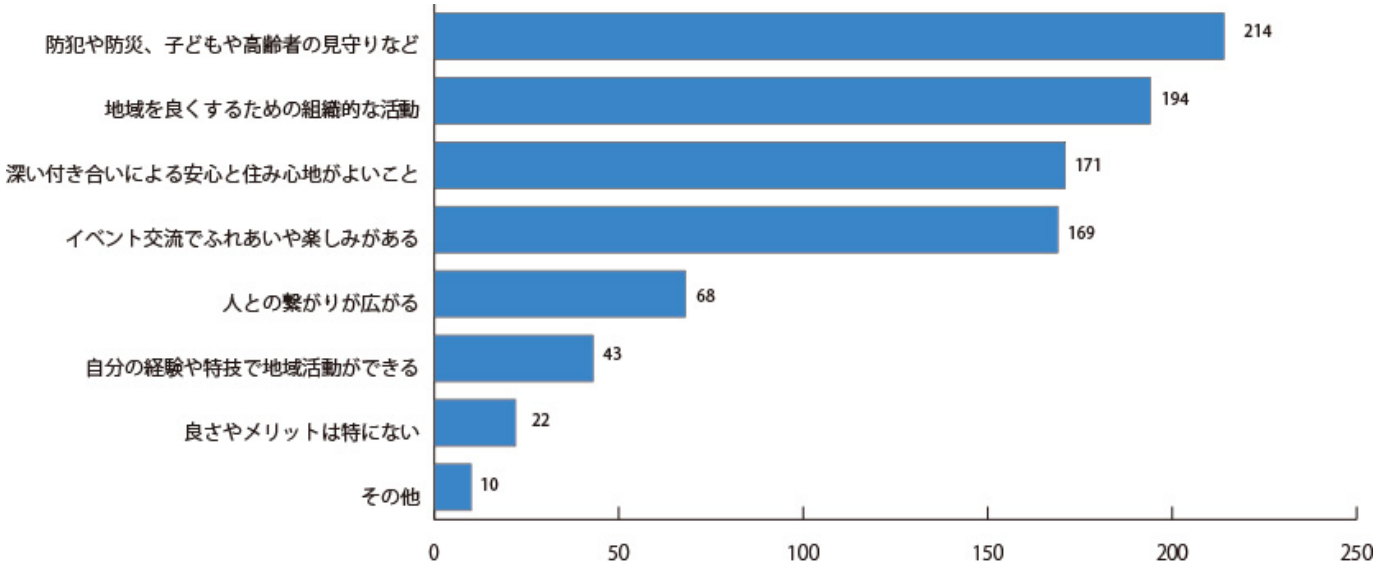
自分達で工夫したイベントや環境美化活動への参加などを通して、地域に住む人達同士で共有できるものが増えるほど、人間関係を形成しやすくなり、生活をより充実させることにつながります。子ども達にとっては、幅広い世代の方々と触れ合うことで、社会性を育む機会にもなります。また、そのような経験を通して、地域への愛着も生まれ、自分のまちを良くしたいと考える人も増え、生活環境の維持・改善への活動に発展することが期待できます。

(4)　住民と行政をつなぐ基盤

自治会は、行政や各種機関と日頃から連携しており、住民が生活する中で困ったときに、どこに相談すればいいかを案内する、住民と行政をつなぐ役割を果たしています。また、地域に特化した情報を受けとめる役割も果たしています。地域のあり方やまちづくりなどについて、自治会の中で協議し、地域の考えとして行政に伝えることもできます。

●自治会アンケートより●（一部抜粋）

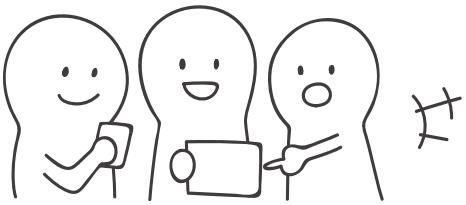
■自治会の良さ、加入することのメリットについて



■メリットのその他の主な内容

住環境の保全と災害時の共助への共感が浸透

- 自然や伝統を守っていくために必要。
- 自治会がないと道路や川などの維持メンテナンスができず、環境が悪化する。
- 大多数が共感して、参加、協力してくれれば自治会はメリット大きい。
- 自治会員の協力（任意）で防災名簿を作成し災害時の共助が可能になる。



自治会に入ることに、どのような意味があるのでしょうか？

(1)　身近な地域の関係づくり

近隣同士で挨拶を交わす関係をつくるきっかけができます。さらに、活動を通して、地域で顔見知りが増えれば、地域のことを知りたいとき、困りごとで相談したいときに、声かけできる人がすぐに思い浮かぶようになります。

(2)　困り事の解決

自治会に参加することで、自分の状況を周りの人に知ってもらえ、困ったときには近隣住民同士手を差し伸べやすくなります。その結果、行政などへもつながりやすくなり、問題を解決しやすくなります。

(3)　身近な地域の情報の入手

身近な場所での地域課題やイベントなどの情報は、市広報やインターネットからだけでは入手しづらく、自治会に入ることで、回覧板や会報などにより地域ごとの細やかな情報を得やすくなります。

(4)　イベントを通じた地域参加のきっかけづくり

普段、地域の接点を持ちたくても持つことができていない人にとって、イベントや環境美化活動への参加は、地域とつながりを持つきっかけとなります。活動を通じて顔見知りを増やしていくことで、助け合いの関係が広がります。

(5)　防災・防犯

災害対策の準備、防犯活動、子どもの通学時の安全対策などは、1人で気をつけていても限界があります。自治会に入ることで、人のつながりができ、地域を守る活動や防災対策を充実させることもできるようになります。

(6)　個人では難しいことの実現

防災の備蓄、消火栓など、地域には安全･安心のインフラが整っていますが、個人で使いこなすこと、維持･管理することは困難です。また、身近な場所での高齢者や子育て世帯のためのイベントなど地域に役立つ活動は、個人では実現しづらいものです。自治会の力を借りれば、体験や活動を行いやすくなり、行政の支援なども得やすくなります。

●自治会アンケートより●（一部抜粋）

■自治会の好きなところ、ここで住んでいてよかったと思う部分について

交流から生まれるつながりが地域愛を生んでいる

〈活動へのやりがい〉

- 様々な経験とスキルをお持ちの会員と一緒に活動することは、楽しい事と感じる。地域の方との触れあいが最も良く、災害時にも助け合える環境と思う。
- 地域コミュニティの継続のため、尽力してくれる人がいること。

〈地域のふれあい〉

- 年代に関わりなく横の繋がりができる。世代を超えた繋がりがあり、団結力がある。
- 普段顔を見ない人でも活動で顔を見ることができ、何かあった時に気軽に相談できる。
- 人とのふれあいや絆があることで安心感が生まれる。高齢者を地域で見守れる。
- 夏祭りが開催され、地元住民の交流と楽しみがある。身近なご近所とのふれあい、助け合える組活動が、いざという時の頼みの綱になるのではないかと思う。

美化活動等の共同作業が交流のきっかけになっている

〈共益・環境〉

- 協力して、地域の美化、環境整備ができる。清掃の傍ら話に花が咲く事も良いと思う。
- 自分たち家族の住む町が安全･安心な町であること。住民たち自らが、創っていくものだと考えている。人的交流･活動が、自治会立ち上げ以来活発に行われてきた。
- 広い広場があり、親子でキャッチボールとかサッカー、グランドゴルフ、花壇づくり、それぞれ自由に使える。
- ほど良い田舎、住み易い環境がある。自治会と新興団地が協力し合って自治会活動を行っている。

ふれあい・支え合い・助け合いが自治会の役目という共感が浸透

自治会を介した住民間の交流が生活の安心になっている

〈転入者・困り事がある人への対応〉

- 転入して来た者に対して親身になって考えてもらえた。役員の皆さんに多大な協力、支援、指導をいただいている。毎日が感謝。
- 遠くの親せきより近くの他人。
- 新しい住宅街なので自治会活動を通じて、知り合いが増えた。
- 都会から転居された年配の方が、自治会になじんで役員を受け活躍されている。若い方や年配の方々とも気安くつき合いができるのも自治会あっての事だと思っている。

2 自治会への加入者を増やす取組のヒント

新しく引っ越してきた人が自治会に加入しない

初めて会った人に「自治会に加入してください」と言っても積極的に入会いただけない場合があります。その場で加入せずとも、自治会を知ってもらうためにパンフレットを渡す、イベントなどがあったら誘うことを伝えるなど、まずは顔見知りになることが大切です。地域の中で接点を設け、新たに転入してきた人や若年層が参加しやすいきっかけをつくることから始めましょう。

運営のヒント

ヒント１　声かけ担当と声かけの準備をしておく

地域に転居してきた人への声かけ担当を決めておきます。引っ越してきた人の中には、地域のことがわからず、不安に感じている人もいます。女性や同世代の人が加わると、話がはずみ、自治会への加入につながりやすくなるのではないでしょうか。

また、ごみ出しルールなどの手渡す書類をあらかじめ準備し、「加入セット」として、まとめておくと、「自治会は何をしているのか？」など、よくある質問にも答えることができます。

ヒント２　お祭りやイベントで自治会活動の案内・ＰＲをする

お祭りやイベントなどで、活動や行事を紹介するパネルを展示するなど、未加入の人に関心を持ってもらう工夫をしてはいかがでしょうか。

ヒント３　ホームページ・ＳＮＳ等で情報発信をする

若い世代は、まずインターネットで情報を検索します。インターネットを活用し、ホームページやSNSによって、活動内容、イベント案内などを情報発信して、若者・現役世代の人々の目に触れるよう努めていきましょう。

【参考事例】

自治会加入の声かけ用の資料を作成

チラシなど資料を作成し、いつでも加入の声かけをできるように準備しておきます。ごみ出しルールブック、自治会案内パンフレット、１年間の行事の一覧などが考えられます。

夏まつりなどの機会を活かして自治会活動を紹介

多くの人が集まる場を、活動内容を伝えるチャンスと考えて、未加入の人にも参加の呼びかけを行います。また、子育て世帯にもっと参加してもらえるように、親子で参加できるゲームや模擬店などの子ども縁日も行ってみましょう。

不動産事業者・開発業者との連携

新たに転入世帯が増える地域があったら、不動産業者を通じて働きかけます。また、業者を通じて、ごみ出しルール、自治会費、行事などについて説明を行います。

自治会が何をしているのか伝わっていない

まだ自治会に加入していない人にとっては、具体的な活動のイメージが持てません。すぐに 100%の理解や納得をしてもらうことは難しいですが、運営方針などを伝え、情報を公開し理解を得るようにしてみましょう。

運営のヒント

ヒント１　自治会だより・会報などを作成し地域で情報共有する

自治会の情報を共有するために、自治会の活動内容をまとめたものを定期的に作成すると、会員だけでなく、特に若い世代や未加入者に自治会を知ってもらうきっかけになります。

● 自治会だより作成の流れ

１．紙面に記載するものを検討

ごみ出しルールや会費の使い道など、暮らしに役立つ情報を掲載し、見てもらいやすくします。
（掲載例：事業年間カレンダー、組織（各部）の紹介、地域の紹介など）

↓

２．紹介するための文章などを作成

各部の役員さんなどに文章作成を依頼し、掲載する写真なども集めます。

↓

３．紙面の作成・レイアウト、配布

文章は少ない方が見やすくなります。
自治会未加入世帯も含め、できる限り全戸に配布しましょう。

※「自治会としての思いや活動の目的」「活動内容」「会費の使い道」「防災時の避難場所」「困ったときの連絡先」などのお役立ち情報も掲載しましょう。

【参考事例】

自治会だよりを作成し、近隣の地域団体へも配布する

自治会活動をより広く知ってもらうため、年数回会報を発行し、自治会員はもちろん、地域にある学校にも配布します。内容も、自治会活動の報告のほか、学校のことや、地域の歴史なども加え、広く地域住民に興味を持ってもらえるようにします。

イベントなどのチラシを配っても参加者が増えない

イベントに興味があっても、知らない人ばかりだと参加しづらいものです。また、日常の仕事や子育てなどにより忙しい中で、イベントへ参加してもらうには、参加する目的やメリットを明確にしておく必要があります。

運営のヒント

ヒント１　「子どものいるファミリー層向け」「〇〇世帯向け」など対象者を明確にする

目的や対象者が明確でないと、チラシを見ても「自分のことだ」と思ってもらえません。同じ防災訓練でも、「〇〇世帯のための訓練」と対象者を具体的に示した方がより関心を持っていただけます。「自治会のイベントに初めての人も歓迎です」などと明記すると、初めての人も参加しやすくなります。

ヒント２　「なぜ、実施しているのか？」を明確にする

ファミリーイベント、防災訓練というだけでなく、サブタイトルとして「～新しく住んだ子育て世帯が地域で知り合いを増やすために～」「～災害時の避難生活を実際に体験するために～」など、実施する理由や目的を明示した方が、関心が高まるのではないでしょうか。

ヒント３　参加したらできること、メリットを明確にする

「子ども神輿に参加するための法被をお貸しできます」「神輿をひきに参加してくれたお子様にはお菓子を無料で配布します」「防災訓練に参加するとハシゴ車に乗れます」「防災グッズを差し上げます」など、参加したらできること・メリットを明確に示してはいかがでしょうか。

ヒント４　イベントの雰囲気や参加者のイメージを持てるようにする

どんな人がイベントに参加しているのか、自分と同じくらいの年代の人も参加しているのかなどがわかった方が参加しやすくなります。チラシへ過去の写真などを掲載する工夫も有効です。

【参考事例】

ホームページやＳＮＳの発信・編集する人を募集

パソコンやインターネットなどのIT関係の仕事をしている人や得意な人に声かけを行い、有償ボランティアなどの形で協力をお願いします。

ごみ拾いや除草活動の参加者を増やしたい

自治会のごみ拾いや除草活動などは、地域をきれいに保つために不可欠な活動であるにもかかわらず、不参加料を支払ってでも参加しない住民の人もいます。それにより、参加された自治会員への負担が大きくなり、ごみ拾いや除草活動が負担だけの活動と感じておられる人も多いと思います。

現状を変えるためにも、やらなくてはいけない「べき」の活動から、参加したいと思ってもらえる活動に転換させる必要があります。

運営のヒント

ヒント１　結果としてごみ拾いや除草作業ができるようにする

地域のごみ拾いや除草作業を単なる清掃活動とするのではなく、地域を花いっぱいにするなどの活動と一緒にごみ拾いや除草作業ができるようにしましょう。

ヒント２　参加してない人が参加したいと思える内容にする

地域を花で彩る活動等であれば、子ども連れでも参加してもらえる可能性があります。花壇のアイデアを募ったりして、企画・運営への当事者となってもらう仕組み・しかけを作るなど、企画者を含めみんなが楽しめる内容にしてみませんか。

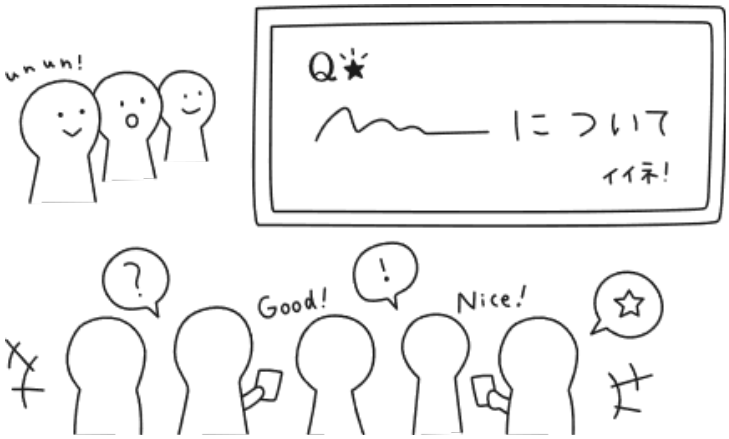
【参考事例】

緑のカーテン事業の取組に参加する

苗を各家庭に配布し、緑のカーテン事業に参加する。どこの緑のカーテンが一番きれいか、地域の共通の話題にもなります。

ガーデニングコンテストを地域で開催

各家庭のガーデニングや寄せ植えのコンテストを行い、継続的な企画とし、自分の家の前だけでもきれいにしようという意識を持ってもらいます。それが地域全体をきれいにしようと思う意識の最初の一歩につながります。



3 自治会活動の担い手不足に対応するヒント

ライフスタイルが多様化し、活動できる時間が合わない

例えば、休日勤務が多い人にとっては、土日祝日の自治会の活動に関心があっても、「仕事で参加できないから」と参加を見合わせてしまいがちです。

まずは、少しでも参加していただくような工夫を行い、限定的でも参加してもらえると、住民同士の接点ができ、継続的な参加につなげることが可能になります。「自治会員は、同じ時間・同じ場所で動くもの」と考えがちですが、様々な参加の方法があってもよいのではないでしょうか。まずは、できること、してもらえそうなことで参加を呼びかけてみませんか。

運営のヒント

ヒント 1　活動の時間帯を工夫する

自治会の活動に関心があっても、時間が合わない人もいます。大切な会議は、多様なライフスタイルの人が参加しやすい時間帯（例えば、平日夜）に設定するなどの工夫も必要です。

また、休日のイベント運営のみを担当する役割を設けたり、交替で参加を分担する仕組みなどの工夫をすることで、多くの人が活動に参加できるのではないでしょうか。

ヒント 2　特定のイベントや活動にだけ参加する仕組みをつくる

活動全般に参加するのは難しいと考える人のために、お祭り、一斉清掃、子ども向けイベントなど、一つの行事に限定した参加を認める仕組みづくりをしてみてはいかがでしょうか。

ヒント 3　目的を限定した「ボランティア」として参加してもらう

日頃、自治会の活動に参加していない人の中には、ホームページやチラシなどを作ることが得意な人もいます。「ホームページやチラシの作成ボランティア」など目的を限定したボランティアとして参加を募ってみてはいかがでしょうか。専門的な技能がいる場合は、有償ボランティアとすることも一考です。

【参考事例】

活動ごとに手伝ってくれるサポーター制度の設置と活用

役員とは別の自治会活動のお手伝いを担ってくれる住民を登録し、行事の運営スタッフなどを無理なく手伝ってもらう仕組みです。現役世代などにも無理なく時間が合うときだけでも参加してもらうことで、若い世代の自治会参画のきっかけになります。活動ごとにサポーターとして参加してもらい、自治会活動の楽しさを感じ、自治会とのつながりを持ってもらいます。SNSなどの連絡を取りやすい手段で、サポーターのネットワークを作っておくと、気軽なお手伝いにつながりやすくなります。

横山町自治会（蒲生地区）では、50 代のメンバーにより、地域イベント（ハイキング、ラーメンの出店等）を自らも楽しみながら企画・運営されています（会費も集めない任意の団体）。

子育て世帯が自治会と接点を持てていない

子育て世帯は忙しく、自治会と接点を持ちづらいと考える人もいます。ただ、身近な場所で、子どもが喜ぶイベントがあれば参加したいと考え、子ども縁日、餅つきなどの行事には関心を示す人もいます。まずは、自治会のイベントに参加してもらい、自治会の活動に理解を深め、少しずつ運営にも関わってもらうことで、関係を深めていくことも大切です。

また、子ども会の資源回収など、日頃、自治会に参加していない子育て世帯も加わっている活動と連携することで、接点を広げてみてはいかがでしょうか。

運営のヒント

ヒント１　子ども向けイベントを通じ、自治会との接点を広げる

地域の行事（盆踊りやお祭りなど）に、子ども向けのプログラム（子ども縁日、ゲームなど）を企画し、子育て世帯の参加を促している自治会もあります。子育て世帯の役員から「自分の子どもならどんなプログラムがあれば喜ぶか」という視点で意見を集め、企画を作ってみてはどうでしょうか。

ヒント２　地域ならではのイベントを企画する

お祭り太鼓練習会、地元農家とのジャガイモ掘り・菜園活動など、地域ならではの企画を行うことで関心を持ってもらえるよう工夫をしてみてはどうでしょうか。

ヒント３　子育て世帯の所属している団体とのつながりをつくる

例えば、地域のパトロールを小学校・中学校の部活動と一緒に取り組む、子ども会が行う資源回収を一緒に行うなど、子育て世帯の所属している団体との接点を広げる取組をしてみませんか。

【参考事例】

学校との関係や親子イベントで子育て世帯との接点をつくる

保護者が地域で行う資源回収に自治会役員がお手伝いに出かけ、PTA活動への支援を行うことで保護者と顔見知りになり、自治会行事への勧誘を行います。行事も親子で参加できるスポーツ大会などを開催することで子育て世帯が地域のイベントに参加するきっかけになります。

「子育て」をテーマにした同年代のネットワークづくり

安心して子育てできる自治会をめざして、地域や自治会に目を向けて活動に参加してもらうきっかけとして「子育て」をテーマにした同年代のネットワークをつくり、「子育てサロン」などの開催につなげてみてはどうでしょうか。

参加した父母、親子によるLINEグループを活用して、自治会行事のお知らせやお手伝いの募集を行ったり、次回以降の内容を自由に企画してもらうなど地域活動につながる可能性があります。

子育て世代にも自治会活動に参加してほしい

子育て世代は共働き世帯である割合も高く、地域の活動にまで十分な時間をさくことができません。しかしながら、子どものための活動には積極的に参加される傾向もあり、従来からの地域行事だけでなく、子育て世代のニーズにあった活動を実施する必要があると考えます。受け身のイベント形式ではなく、積極的な参画に繋がる定期的な事業を実施することで、子育て世代が地域活動に参加するきっかけ作りをします。

運営のヒント

ヒント１　自治会管理の公園や土地を活用する

公園を子ども達のために活用したい子育て世代に使ってもらい、代わりに公園の遊具の管理や除草をお願いすることで、子育て世代の地域活動の参加の一歩にもなり、自治会の負担も分散されます。

ヒント２　まずは、同じことに悩む子育て世代の交流の場を作る

子育て世代は転入してきた世帯も多く、地域住民同士の交流ができていないことが多いです。一方で、子育てについて悩みがあり、誰かに共感してほしい、情報交換したい、といったニーズがあるため、まずは、同じ境遇の人と交流できる場を提供し、その中で自分達が地域と共にできることを考えてもらいます。

【参考事例】

子どもの遊び場づくり

子ども達が泥んこになって遊べるプレイパークなどを作ってみてはどうでしょうか。公園はあっても団地内の小さな公園であることが多く、もっと自然を感じて遊ばせたいというニーズがあります。地域の有志と子ども達の親が中心となって、自分達で滑り台やジャングルジム、泥んこプールなどを作ったり、子ども達も新しい遊びを考え、楽しむ場となります。

子育てサロンの開催

子育て世代が多い自治会では、「子育てサロン」や「子ども食堂」などを実施することで、若い世代に参加してもらえる可能性があります。子育て中の父母、子ども達が主な対象となり、そこから自治会を知ってもらい、様々な活動に参画してもらえるかもしれません。

一方で、自治会だけで行うことは負担になる可能性もあるため、自治会内の有識者や学生、活動団体とつながりながら取り組んでみましょう。

次の役員を見つけるのに苦労している

特定の人に負担をかけないようにする役割分担、新しく役員になった人を助ける仕組みなど、運営の仕方を見直すことも必要になっています。

運営のヒント

ヒント１　段階的に役割を担ってもらう

最初は、お祭りやイベントを手伝ってもらうところから始め、内容や事務量などを理解しながら取り組んでもらいます。徐々に関係を築き、次に企画の役割を担ってもらうことも良いでしょう。

ヒント２　役員以外の人もみんなで運営する

イベントの準備などは、どうしても負担がかかるため、役員以外の人もみんなで運営する体制をつくります。事業やイベントごとにお手伝いしてもらえる人を設定し、特定の人に責任や負担がかからないようにすることが必要です。誰が役員になっても機能する組織運営が必要ではないでしょうか。

ヒント３　個人に負担や責任を押し付けない運営方法にする

役員になったばかりの人が運営をすると、失敗したり、進め方に迷うこともあります。そのような時、いきなり本人を責めるのではなく、それぞれが忙しい中で役員を担ってくれていることへの感謝を言葉にするなど、支える工夫をしてみましょう。

ヒント４　役員へ女性の登用を増やす

女性が参画しやすい環境づくりのために次のような取組を考えてみましょう。

・総会に出席した女性の意見を求める
・女性だけの会議により意見を集約し、自治会役員と意見交換をする
・役員の候補に女性があがるようなルールづくり

【参考事例】

地域の声を還元し、担い手のやりがいづくりとする

アンケートによって、様々な人の意見を把握し、それらの意見を活動に活かします。そうしたアンケート調査の中に、活動全般に対する設問も入れておくと「役員さんへの感謝」が書かれていることもあり、それを役員へフィードバックし、やりがいを感じてもらえます。

若手・現役世代が中心に活動する場を自治会の別組織として発足

地域の若い人の「地域の役に立ちたい」という自主性を尊重し、自治会から独立して、自分達で地域に役立つ活動ができるようにし、活動内容も自分達で決めてもらいます。

役員のお仕事引継ぎマニュアルを作って不安解消

役員の担い手不足の背景には、そもそも役員がどんな仕事をしているのかわからず不安であるため、役員になりたくないということがあります。お仕事引継ぎマニュアルをつくることで、役員交代もスムーズにでき、後任役員の不安解消につながります。

運営のヒント

ヒント１　マニュアルの作成はわかりやすく、見やすく

役員の担い手確保のためには、まず役員の仕事がどのようなものかを見える化すると効果的です。また、マニュアルをつくることで各部の役員の仕事を棚卸しすることができ、事業の見直しにつながります。

●マニュアルのポイント

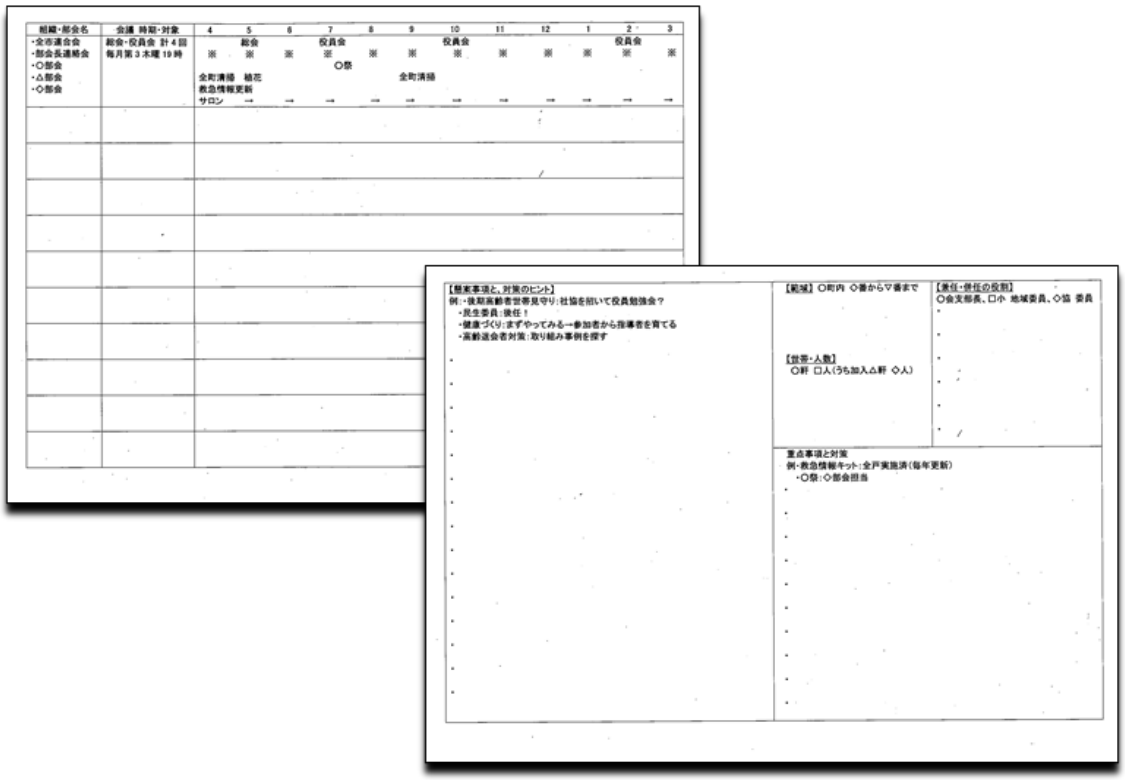
・各部の仕事内容を整理する際には、具体的に準備を始める時期や気をつけるべきことなども記載しておくと引継ぎに役立ちます。

・各部会、役職は自治会内でどのような役割なのかを記載しておくと、やりがいやモチベーションにつながります。

【参考事例】

ご自身の自治会でも引継ぎに活用できるマニュアルの「ひな型」

引継ぎマニュアルの「ひな型」があります。このヒント集の参考資料に添付しています。



時代に合わせた自治会の仕組みづくり

自治会長が行う仕事は、平日に動かないといけない仕事も多く、なかなか若い世代が担うには負担感が大きいのではないでしょうか。少子高齢化社会に伴い、若い世代を高齢世帯でバックアップできるような組織づくりが必要です。

また、役員になると多くの時間を割かないと対応できない状況に陥りがちです。ある程度の負担は仕方ないのですが、行事や打合せの回数を減らす、時間を短くする、必要なくなった活動は止めるなど、今までの活動内容を見直すことが必要です。

運営のヒント

ヒント１　事務員の配置

事務員を自治会館に設置し、配布物の管理を行ってもらいます。また、各組長との連絡調整や自治会館を開放することで（月１日でも）自治会の集いの場として活用できます。

事務員は、自治会の規模や必要に応じて、週に1日や、午前中のみといった柔軟な勤務体制をとります。

ヒント２　40 代・50 代の自治会長を支援

働き世代の人にとって、自治会長の役を担うのは「負担」と感じる人が多いため、負担軽減のための仕組みとして、60 代･70 代の元自治会長などの役員経験者が自治会長をサポートする取組を行ってはどうでしょう。

ヒント３　役員の選択と集中で「近隣自治会とあわせて１人の役員」も可能に

近隣の自治会と情報交換を行い、運営について一部提携します。一方、今後、自治会内で重点的に取り組んでいきたい事業（防災・見守り・空家対策等）へは、複数の役員を設定し、ひとりの役員に負担がかからない体制を整えます。

【参考事例】

事務員を置いている自治会（一部抜粋）

※令和２年度現在

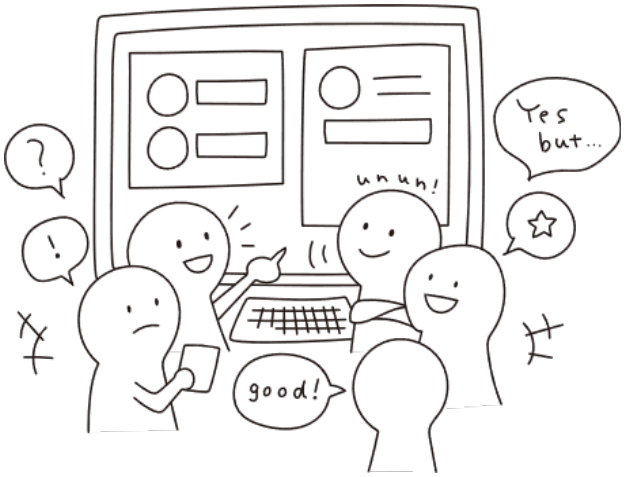
自治会名（世帯数）	回数	時間
栗見出在家町自治会（86）	週5	9：00 ～ 15：00
五個荘川並町自治会（220）	週3	9：00 ～ 16：00
佐野自治会（758）	週5	9：00 ～ 12：00

※主な仕事は「配布物を組単位にする」「サロンも担当している」「自治会の会報の作成」「自治会費を自治会館に持ってこられるので、銀行への入金作業」など

※五個荘川並町自治会では、自治会館に営農組合から規格外の農作物が置いてあり、自由に持って帰れるような運営をされています。

役員の半分が隔年で交代、事務を分担する

五個荘七里町自治会は、正・副自治会長を除く評議員6名（1年目3人、2年目3人）が1年目と2年目でコンビを組み、防災・福祉・環境をそれぞれが担当し、補助金関係の書類作成や申請も担当で行っておられます。また、それに伴う庶務（準備）も担当で行っておられます。



4 地域の変化に対応する自治会運営のヒント

高齢化する地域で、高齢者の孤立・介護などの問題に対応

高齢化が急速に進むとともに、地域の人間関係が希薄化しつつある中で、引きこもりや孤立して生活している人がいます。また、親の介護や認知症などの問題を抱えている人もいます。このような問題は、外からは見えにくいため、地域の課題になりづらかったり、若い世帯は関心を持ちづらかったりするため、問題が放置され、孤独死などの原因となります。

運営のヒント

ヒント１　地域の高齢者の状況を把握する

困ったときに頼るにも、助けるにも顔見知りでないと難しいため、敬老祝い品の配布、見守り活動、災害時要援護者への訪問活動などを通して、一人暮らし高齢者や介護をしている世帯と顔見知りになるようにします。

ヒント２　サロン活動など居場所づくり、見守り活動に取組む

高齢者向けの地域のサロン活動を通して、孤立を防ぎ、外出機会を増やす活動をしている自治会もあります。その際、社会福祉協議会や民生委員と連携することで、運営方法や対象者への声かけなどを進めることができます。また、空家等を活用して、近所で集える場所を設け、世間話をするだけでも良いので、隣近所との関わりを持ちながら安心して暮らせる環境をつくる方策もひとつです。

ヒント３　連絡網を整える

現在、高齢者でもスマートフォンを使える人が増えています。スマートフォン教室などを通して、困った時にお互いに気軽に連絡できる仕組みづくりもできるのではないでしょうか。スマートフォン教室は、認定NPO法人まちづくりネット東近江へ講師の派遣依頼が可能です（巻末参考）。

ヒント４　地域団体の活動を紹介する

自治会だけで高齢者を支える活動は難しい場合もあるため、社会福祉協議会の講座やイベント、体操や趣味の地域団体及びまちづくり協議会などの情報をお知らせしてはどうでしょうか。

【参考事例】

ボランティア登録制度の実施

高齢者世帯のちょっとした困りごと（電球の交換、パソコンのトラブル、水道関係）を手伝う「有償ボランティア制度」を作り、御用聞きも行う。そうしたところから、つながりができたり、高齢者の様子を把握できるといった効果が期待できます。

地域の介護福祉施設との連携

ヘルパーや介護福祉士等福祉の専門家と、自治会の福祉推進員や民生委員との関係を深めることにより、サロン等の事業が年度を超えて実施できます。

気軽に取り組むことができる防災活動から防災意識を高める

台風などの自然災害の増加や大規模災害の恐れや地域での犯罪などの不安が高まる中、地域の助け合いで防災・防犯を進めることは、自治会の大切な存在意義の一つでもあります

もしもの時の災害対応は、地域の防災力が重要です。防災活動を通じて、若い世代にも自治会に関心を持ってもらいましょう。世代を問わず住民のニーズが高いテーマです。

運営のヒント

ヒント１　当事者意識を持てるように工夫する

自分の住む地域では、どのような被害が出る可能性があるか、市のハザードマップなどを利用し、地域の課題を地図などにまとめ具体的に示すことで、当事者意識を持てるように工夫してみてはいかがでしょうか。

ヒント２　地域団体と組んで、新しい発想の活動を行う

外部の専門家（消防署）、NPOなどの協力を得て、防災×街歩き、防災×運動会など、初めての人も関心を持ちやすい企画を行っている自治会もあります。

【参考事例】

地域の施設の防災活動にも参加

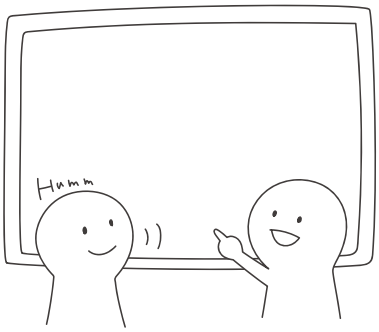
自治会としても、地域にある老人ホーム等の防災活動に参加するなど、消防隊が駆け付けるまでの入居者の救護及び初期消火を地元の消防団と協力し合い、日頃から地域の防災活動に協力することで、地域の防災力が高まります。

災害図上訓練（ＤＩＧ）による防災活動

DIG（ディグ）とは、Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の頭文字をとって名付けられた地図を使って防災対策を検討する訓練のことで、地図とペンを用意して、楽しく、誰でも取り組むことができます。

【DIGで用意するもの】
- 大きめの自治会の地図
- ペン、ふせん
- 災害情報の想定シート（災害の種類：地震・水害、ライフラインの状況、被害状況など）

具体的な方法などは、市の「防災出前講座」で防災危機管理課（TEL 0748-24-5617）へお申込みください。申込書は市HPにも掲載しています。
（市HP https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000005320.html）



インターネットの利用者が増えている状況に対応

インターネットによるSNSなどは、自治会に加入していない、特に若い世代に対して、自治会の情報や地域の情報を届けることができ、回覧板に代わる町内で情報を共有する一つの手段としても有効で、今やスマートフォンでホームページを閲覧したり、情報収集することが一般的です。

慣れていない人にとっては、ハードルを感じることもあるでしょうが、地域の若い世代に参画してもらう機会としてとらえることもできます。

●主なSNSのサービス

※SNS：Social Networking Service(ｿｰｼｬﾙ・ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ・ｻｰﾋﾞｽ)の略称で、インターネット上で人と人との交流を広げていくサービスのことです。

Facebook（フェイスブック）：ユーザー数は世界一。40 ～ 60 歳代で男女ともに多く、実名登録が規約で定められている。

Instagram（インスタグラム）：写真情報に特化している。10 ～ 30 歳代の女性が中心で、情報の拡散性が低い。

Twitter（ツイッター）：手軽さと情報の速さが特徴。10 ～ 20 歳代の若い世代の利用が多く、情報の拡散性はとても高い。

LINE（ライン）：10 ～ 70 歳代と幅広い世代が利用。主に知人・家族間などの連絡ツールとして利用が効果的。

運営のヒント

ヒント１　ＳＮＳを活用した情報発信を支援する

若者だけでなく、シニア世代にも、Facebook や Twitter、などのSNSを利用する人が増えています。自治会の情報や活動風景の写真をSNSに投稿して共有することで、コミュニケーションの活性化を図ってみてはいかがでしょうか。

ヒント２　ボランティアにお願いする

地域にはホームページやSNSなどに詳しい人、日頃使っている人がいると思われます。地域の若手に参加してもらう一つのチャンスとして、自治会内で「ホームページ作成ボランティア」のように募集をし、お願いする内容によっては有償ボランティアとすることも検討してはいかがでしょうか。

【参考事例】

「ＬＩＮＥ」や「自治会ポータル～結ネット～」などのスマホアプリの活用

紙での回覧から順次、LINEなどへの回覧に切り替えていくことで、役員の負担軽減をめざします。また、役員会などの資料を共有し、会議に参加できなくても、フォローできる体制をつくることで、忙しい人でも役員として活動できる環境を整えることができます。

※「自治会ポータル～結ネット～」とは、地域組織や各種団体において、平常時は地域等の電子回覧板や自治体・事務局・店舗からの情報発信ツールとして利用し、災害時には安否確認システムとして活用できるスマートフォンアプリです。

若い世代からの要望でホームページを開設

五個荘川並町自治会では、令和3年度から、若い世代からの要望でホームページの開設を予定されています。回覧板の見落としを防ぎ、再度の内容確認が可能になり、情報をデジタル化することで、紙面では情報を得られなかった人にも届けることができます。

子どもや老人の安否確認を迅速化

LINEの機能で年齢などを把握し、グループ化して高齢者を対象にメッセージなどを送ることができ、安否の確認などの活用が期待されます。また、子どもの事故や事件などの情報を素早く共有でき、自然災害時の避難情報の共有にも活用が期待されます。

中学生・高校生・大学生によるデジタル化支援

社会人・大学生・高校生・中学生からの支援協力を求め、デジタル化を進めながら、自治会への参画を促し、世代間交流と人材育成に結び付けます。

5 自治会運営・事業の見直しのヒント

検討チームで現状・課題・将来ビジョンを共有

自治会の現状や課題を検討チームによる会議やワークショップで共有しましょう。検討チームには、既存の役員会を位置づけたり、各組長さんをメンバーにすることも考えられます。また、新たに各年代層から男女割合などのバランスを考慮して、新たにチームを発足できると、多様な視点から意見を集めることができます。

運営のヒント

ヒント１　会議やワークショップで話し合う

活発な意見交換やアイデアを出すには、参加者が手を動かしながら、自由に発言できるようなワークショップを開催することが効果的です。

	会　議	ワークショップ
目　的	・情報の伝達 ・意思決定（合意形成）	・意見交換 ・アイデア出し
方　法	・議長が議題を提案し、意見を発言する ・フォーマルな雰囲気	・模造紙やふせんを使用しながら、自由に発言 ・カジュアルな雰囲気
形　式	・ロの字などで大きなテーブルを囲む ・議長が前で進行する	・５～６人でテーブルを囲み、距離感が近い ・進行役もテーブルにつく

●若い世代など新しい参加者から意見を聞くときは、かしこまった会議の場よりもワーク　ショップの方が気軽に参加してもらえる場合もあります。

【検討できそうな内容例】

例１　地域のこうありたい将来イメージについて語り合う

…参加者の思いとともに将来像について自由に話し合います。

例２　伝統行事・因習の見直し・地域農業の存続

例３　少子高齢化による担い手不足などの地域課題を把握

住民アンケートでニーズを把握

住民を対象にしたアンケートを配布し、自治会内の事業への参加経験や満足度・重要度などの調査をします。今後の自治会活動の意向を聞くことで、住民意識とのギャップの確認や課題の共有につながります。

運営のヒント

● 住民アンケートの流れ（例）

アンケートの目的を整理し、アンケート票を作成

↓

アンケート票を配布・回収

↓

アンケート結果の分析・住民への共有

↓

結果に基づいた見直し・再構築へ

●個人情報保護について

アンケートの回答は個人情報にあたるものも含まれている場合は、回収時は返信用封筒に入れ、封を閉じたものを回収するとよいでしょう。

●回収方法について

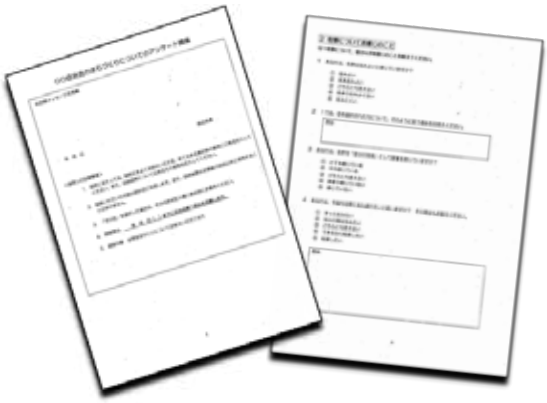
回収方法にはいくつかの方法があります。自治会にとって負担が少なく、かつ回収率の高いものを組み合わせると効果的です。

・組長が各戸を回る
・組長宅で回収（回答者が提出）
・自治会館などにポストを設置
・地域の商店などに協力してもらい、回収ポストを置いてもらう

【参考事例】

ご自身の自治会でも活用できるアンケートの「ひな型」があります

池庄町自治会（湖東地区）や佐野自治会（能登川地区）で実施された実績のある、アンケート票の「ひな型」があります。このヒント集の参考資料に添付しています。



アンケート結果から将来ビジョンの検討と活動の再構築

アンケート結果から見える、住民が望む将来ビジョンや活動の見直し内容について検討チームで議論し、見直しの過程を広報等で自治会内で共有することも大切です。また、見直すだけでなく、アンケートで寄せられたアイデアやこれからの必要とされる活動とともに、将来ビジョンを検討することで、前向きな議論につなげていくことができます。

運営のヒント

STEP 1　アンケート結果から、将来ビジョンや活動の見直し内容の方向性

・アンケート結果とともに、地域の将来的な自治会人口の推移や高齢化率等を視覚的に共有して、これから地域がめざす将来イメージを具体的にします。

・例えば人口減などで起こってくるであろう、維持管理機能低下や担い手不足などの地域課題を具体的に挙げていきます（自治会館、道路、河川、公園、防犯灯等）。

STEP 2　5年後・10年後・20年後の地域が「こうあって欲しい」を共有

・STEP ①で地域の将来を受け止めた上で、未来の「こうあって欲しい」のほか、「こうなったら困る」地域像を自治会内で共有します。

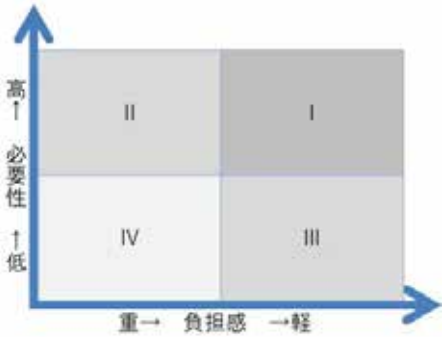
STEP 3　現在の自治会事業・業務の棚卸し、仕分け

・現在の自治会事業・業務を一度全てテーブルに出して課題を整理します。

・STEP 2で出した将来の地域であるために、現在の自治会の事業を見直すとしたらどうなるかを議論します。

・縦軸を必要性・横軸を負担感にした表で整理します。

・既存の事業に無いもので、STEP 2のために必要な事業アイデアが出たら入れていきます。



STEP 4　事業の整理

・Ⅳの中でやめるべき事業があるか、Ⅱの負担を軽くしてⅠにする工夫があるか、など整理した表の中で活動内容を考えます。

STEP 5　事業整理過程を自治会の中で共有し、意見収集

・STEP 1～4の過程の記録を自治会内で共有して意見を募り、次年度の計画に反映させます。

市の制度をうまく活用する

市の制度を活用し、潜在的な課題の抽出や解決に向けての活動をしてはどうでしょうか。

住み続けたい地域づくり交付金事業

生まれ育った地域で若者の定住を妨げている原因は何かを洗い出し、自治会や地区運営のあり方、地域農業や生活環境、交通の課題、地域の伝統行事や因習、就学・就労・未婚・少子化の問題等について、自治会内にプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行う活動です。

自治会が行う地域課題の洗い出しやその解決に向けた取組に対して、予算の範囲内で交付金を交付します。

(1)　交付の要件（次に掲げる要件をいずれも満たすものとします。）

① プロジェクトチームのメンバーは、自治会役員の他、公募によりメンバーを募ることとし、各年代層から男女の割合が概ね半々になるよう選出し、概ね 10 名以上で組織すること。

② プロジェクトチームは、会議や研修など年間概ね5回以上開催すること。

③ プロジェクトチームの会議や研修は広く住民に公開することとし、アンケート調査等により住民ニーズを捉え、そのニーズに対し効果を得る活動であること。

④ プロジェクトチームの検討内容や計画をまとめた成果物を作成し、自治会内全戸へ配布するとともに、説明を行う場を設けること。

(2)　補助対象経費

報償費	講師・有識者への謝金、謝礼
旅費	調査、研修、講師・有識者への旅費
需用費	消耗品費、燃料費、食糧費（会食の経費を除く。）、印刷製本費
役務費	事業の実施に要する通信費、保険料、筆耕料等
使用料及び賃借料	会場借上料、バス借上料、コピー使用料、施設入場料等

(3)　補助金額（次のとおり定額を補助します。）

世帯数 100 世帯以上の自治会は上限 100,000 円

世帯数 100 世帯未満の自治会は上限 70,000 円

(4)　その他

この補助制度の利用を希望される場合は、例年8月末日までに事前に実施計画書を提出してください。多数の応募がある場合は、補助金額を減額する場合があります。

◎住み続けたい地域づくり交付金事業の実績一覧

https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000013184.html

参考資料

アンケート調査票様式

１　世帯のこと

Ｑ１最初に、ご回答いただくあなたのことについて教えてください。

１　あなたの性別についてお答えください。

①　男性
②　女性
③　無回答

２　あなたの年齢層についてお答えてください。

①　２０歳代
②　３０歳代
③　４０歳代
④　５０歳代
⑤　６０歳代
⑥　７０歳代
⑦　８０歳代以上

Ｑ２あなたの世帯のことについて教えてください。

１　あなたの世帯の構成をお答えください。

①　単身（１人暮らし）
②　夫婦（２人暮らし）
③　親子（２世代）
④　親子（３世代）
⑤　その他（　　）

２　あなたの世帯の主な職業をお答えください。

①　農林業
②　会社員・公務員・団体職員
③　自営業・会社経営
④　パート・アルバイト
⑤　その他（年金生活等）

３　あなたの世帯で１８才以下の子どもの有無をお答えください。

①　なし

②　あり

⇒　〇で囲んでください。（未就園、保育園・幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、高校、その他）

２　〇〇についてお感じのこと

Ｑ１　〇〇地区について、皆さんがお感じのことを教えてください。

１　あなたは、〇〇地区は住みよいと感じていますか？

①　とても住みよい
②　住みよい
③　どちらとも言えない
④　あまり住みよくない
⑤　住みにくい

２　１で④、⑤を選択された方について、そのように思う理由をお答えください。

理由

３　あなたは、〇〇地区に愛着を感じていますか？

①　とても感じている
②　やや感じている
③　どちらとも言えない
④　あまり感じていない
⑤　感じていない

４　あなたは、今後も〇〇地区に住み続けたいと思いますか？　その理由もお答えください。

①　ずっと住みたい
②　当分の間は住みたい
③　どちらとも言えない
④　できるなら転居したい
⑤　転居したい

理由

３　活動や事業の満足度と重要度

Ｑ１　〇〇自治会が行う下記の活動や事業、また今後、課題となることが予想される事柄について、「重要度」、「満足度」、「負担度」についてお答えください。（１つの項目につき、３つ〇をしてください。）

地域が行う活動や行事 今後、課題となることが予想される事柄	重要度 低い←　→高い					満足度 低い←　→高い					負担度 低い←　→高い				
（例）〇〇〇〇〇〇について	1	2	3	④	5	1	2	③	4	5	1	2	3	④	5
1　地域の付き合いについて	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2　草刈り・川掃除など、道路や河川の維持管理について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3　花の植栽や清掃など、地域の美化・環境保全について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4　防災訓練や消火栓の点検など、自主防災会活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5　夜回りや交通立番など、防犯・交通安全活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6　自治会館やグラウンドなどの清掃・維持管理について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7　神社や墓地の清掃・維持管理について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8　夏まつりなどのふれあいイベントについて	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9　敬老会などの、主に高齢者向けの行事について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10　あったかサロンなど、仲間づくり・生きがいづくり活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11　子ども会など、主に子ども対象の行事について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12　スポーツ大会について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13　登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14　厄除大祭や神事祭など、神社の活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15　農地などの維持管理について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16　健康教室など、健康づくり活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17　〇〇の歴史や文化を保存・継承する活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18　高齢者の買物・通院などの移動支援活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19　子育てなどが相談できる場や人について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20　日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21　散策など、地域の魅力を体験する活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22　特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23　空家等の状況把握や持主との交渉など、空家の管理等について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24　空家紹介や住民との交流など、定住受入活動について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25　紹介やイベントなど、結婚対策について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26　広報やケーブルテレビでの〇〇の情報発信について	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

４　不安に思うこと・手伝えること

Ｑ１あなたの世帯が生活するうえで、不安に感じていること・困っていることや、また、困っている人に対して、「少しならお手伝いできること」はありますか？

◆不安・困っていること
◆特に自治会の役員に相談したいこと
◆「手伝えること」について、あてはまるものに○をつけ、資格や経験などを、差し支えない範囲で教てください。

項　　目	・不安 ・困っている	自治会に 相談したい	困った人を「お手伝いできる」	
			該当する項目に ○	・資格 ・経験など
健康に関すること				
介護に関すること				
子育てに関すること				
結婚に関すること				
進学や就職に関すること				
経済的なこと				
仕事に関すること				
食事づくり、洗濯、ごみ出しなど日常生活のこと				
庭作業や電気器具の修理などの軽作業のこと				
農地・山林の維持管理のこと				
日常的な相談をする相手がいないこと				
看病や世話をしてくれる相手がいないこと				
緊急時の相談先になってくれる人がいないこと				
買物・通院などの移動に関すること				
地域の付き合いや活動に関すること				
災害時の備えや避難に関すること				

５　自由記述

Ｑ１地域での暮らしや、地域の活動・事業について、お感じのことや御意見・御提案を、御自由にお書きください。

お忙しい中御協力いただき、ありがとうございました。

※ IIHOE〔人と組織と地球のための国際研究所〕刊
「ソシオ・マネジメント」第６号「続・小規模多機能自治」を参考に作成

自治会長引継帳様式

【懸案事項と、対策のヒント】
例：・後期高齢者世帯見守り：社協を招いて役員勉強会？
・民生委員：後任！
・健康づくり：まずやってみる→参加者から指導者を育てる
・高齢退会者対策：取り組み事例を探す

【範域】〇町内 ◇番から▽番まで

【世帯・人数】
〇軒 □人（うち加入△軒 ◇人）

【兼任・併任の役割】
〇会支部長、□小 地域委員、◇協 委員

重点事項と対策
例・救急情報キット：全戸実施済（毎年更新）
・〇祭：◇部会担当

組織・部会名	会議 時期・対象	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・全市連合会 ・部会長連絡会 ・〇部会 ・△部会 ・◇部会	総会・役員会 計４回 毎月第３木曜 19 時	総会 ※ 全町清掃　植花 救急情報更新 サロン	※ →	※ →	役員会 ※ 〇祭 →	※ →	※ 全町清掃 →	役員会 ※ →	※ →	※ →	※ →	役員会 ※ →	※ →

※ IIHOE〔人と組織と地球のための国際研究所〕刊
「ソシオ・マネジメント」第６号「続・小規模多機能自治」を参考に作成

認定特定非営利活動法人
まちづくりネット東近江

東近江市を中心に市民活動に取り組む団体やまちづくり協議会、NPO 法人等の団体が交流し、それぞれの活動が活発になるように支援する団体で、「中間支援組織」と呼ばれています。
「つながる、ひろがる、支え合う」を法人の活動テーマとして、交流イベントの開催やネットワークづくり、情報発信、講座の開催や相談業務等を行っています。

Contact Information

〒 527-0028
滋賀県東近江市八日市金屋 2 丁目 6-25
0748-56-1277
info@e-ohminet.com
http://e-ohminet.com

まちのわ かいぎ

地域で実現したい夢や解決したいことを拾い上げ整理し
参加者が同じ目線で意見を交わす

まちのわ会議

協働ラウンドテーブル「まちのわ会議」とは

- 地域で実現したい夢
- 地域にある課題の共有
- 地域でやりたいこと

・出席者が上下関係のないフラットな立場で意見を交わす
・議論を進行するのは、ファシリテーター
・板書（記録係）が議論の見える化を図る

過去のまちのわ会議をご覧いただけます。

Facebook で情報発信しています！

まちのわ会議　東近江市協働ラウンドテーブル

■東近江市協働ラウンドテーブル運営委員会とは

東近江市ラウンドテーブル運営委員会は、市の市民協働推進委員が中心となり参加する有志の集まりです。ファシリテーションや記録など、ラウンドテーブルの運営技術を高めながら、さらに試行と実践を重ねて地域の対話が広がる場づくりを月 1 回の定例会で考えています。

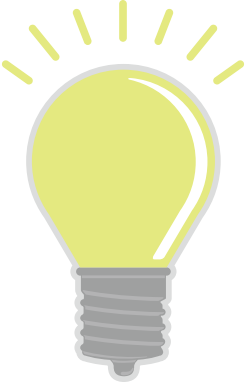
＜お問合せ＞
東近江市ラウンドテーブル運営委員会（事務局：NPO 法人まちづくりネット東近江）
住所：東近江市八日市金屋二丁目 6-25　TEL：0748-56-1277　MAIL:info@e-ohminet.com

【参考資料】
『千歳市町内会活性のためのヒント集』
　千歳市町内会連合会、株式会社ＫＩＴＡＢＡ

自治会運営のヒント集
～自治会まるごと支援メニュー～

令和３年９月発行

【発行・問い合せ】
東近江市 総務部 まちづくり協働課
TEL　0748-24-5623（直通）
IP　050-5801-5623

編集：認定特定非営利活動法人 まちづくりネット東近江

http://e-ohminet.com